

2022年8月発行

CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 71

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

パキスタン干ばつ等対応 防災力向上支援：現 場の取組を全国展開に 繋げる

2019年より開始したパキスタン南東部のシンド州の乾燥地帯における防災力向上の支援は、当初3年を予定していた第1フェーズは、コロナ禍や国内外の政治経済の不安定化の影響を受けて延長を繰り返しましたが、いよいよ大詰めとなっています。この地域は、インド国境に近く、パキスタンの中でも特に開発の遅れた地域で、繰り返し干ばつの危機に見舞われています。

第1フェーズでは、乾燥地帯にある同国シンド州ウマルコート近隣の24の村に直接的な支援を行いました。具体的には、衛星写真や電気探査を使い地下水脈を特定し、太陽光発電を利用した揚水ポンプを備えた深井戸を各村に建設しました。これには、塩分濃度の高い地下水を飲料可能な水へと濾過する大型フィルターも備えられています。飲用可能な安全な水を、深井戸から安定的に確保できるようになり、干ばつに備えられるようになっただけでなく、普段の生活においても、遠く離れた場所まで水汲みにいかなければならない負担を軽減し、不衛生な水を使うことによる体調不良などの健康面での様々なリスクの軽減できました。

OUR SNS IS ACTIVE!

FACEBOOK
TWITTER
INSTAGRAMでも
情報発信しています！

最後のページを
ご覧ください



写真
浄水フィルターを通した水は
安全でおいしい

"浮いたお金を災害時に備えて貯蓄できただけでなく、子どもの教育のためにも利用できたという声も"

こうしたハード面の支援に加え、乾燥に強い農法や家庭菜園の研修、災害（特に干ばつ）に備える「防災」の啓発と各村における防災委員会の立ち上げ推進など、ソフト面においても、村人自身が主体的かつ持続可能に災害リスクを理解し、これを軽減できるように支援してきました。家庭菜園で作った野菜はオーガニックで健康的であるだけでなく、市場で買うよりも安価に入手できるため、浮いたお金を災害時に備えて貯蓄できただけでなく、子どもの教育のためにも利用できたという声もありました。



写真

村人たちから支援の成果を聞き取る
CWS Japan五十嵐職員

こうした「現場」における取り組みの成果が、シンド州の他の地域や、パキスタン全土に広がることを狙いとして、2022年8月19日に州都カラチでナショナル防災セミナーを開催しました。同セミナーには、日本からCWS Japanの職員が2名参加した他、現地パートナー団体のCommunity World Service Asia(CWSA)やパキスタン赤新月社などの支援団体、現地行政機関、シンド農業大学などの研究機関、在カラチ総領事館など、多くの方に参加いただきました。



写真

衛星を使った地下水分析についてセミナーで説明するCWS Japan小美野事務局長

そこでは、これまでの支援の成果が発表されただけでなく、これまで集められた地下水のデータへのアクセスを容易にするネットワークの構築など、未来に向けた取り組みの課題なども幅広く話し合われました。

CWS Japanは、引き続き同地域における支援が定着し、他の地域にも波及するように取り組んで参ります。

(文：プログラム・マネージャー
五十嵐 豪)

インドネシアの島を渡って

CWS Japanは、2021年4月にインドネシア東ヌサ・トゥンガラ州に上陸したサイクロン・セロージャの被災者支援を2022年1月迄実施しました。詳細な支援内容やどれだけの方々に支援を届けられたかは、ニュースレターNo.67で報告させて頂いた通りですが、今年の7月の事業終了後から半年たったタイミングで、現地調査活動を実施しました。

今回の調査の目的は、特に防災支援において、CWSによる支援の効果を確認することでした。

まだ、現在も調査活動は継続中で、分析を進めているところですが、この記事では、対象地を初めて訪れたわたしの感想やインタビューを通して得られた裨益者コミュニティの知恵やストーリーをお伝えします。

支援対象地域であるヌサ・トゥンガラ諸島の東ヌサ・トゥンガラ州Malakaは首都のジャカルタがあるジャワ島から、まず4,5時間のフライトでKupangまで着いたあとに、車で8時間程度（トイレ休憩をはさみ、渋滞に巻き込まれると10時間！）走らせた場所にあります。とてもきれいな景色でしたが、長い旅路に感じました。



写真

KupangからMalakaまでの道中

現地の慣習と知恵

Malakaでは、チークの木が生えています。そこで造られるチーク材を使った家具は、強く強靱で耐久性のある素材であるため、チークで造られる家具は人気もあり、東ヌサ・トゥンガラ州外で売買されるときは、州内で購入できる価格より3,4倍高額になることもあるそうです。筆者が木材や椅子を手にした時も、その重さに驚きました。木の高さは30mを超えるものもありますが、そこまで成長するには5年程度はかかると現地の人々が教えてくれました。

そんなチークの木ですが、家具としてだけでなく、サイクロン・セロージャが上陸し、洪水が地域を襲った際にも、活躍しました。



写真

現地では、椅子等の家具や、家の窓などにもチークが使われています

洪水で氾濫した川沿いに植えられたチークの木に土砂や大きな物が流れ込んできましたが、それらを木々が堰き止めたという報告があった現場を見ました。チークの木はその重量に加え、根っこが深くまではるため、土砂や水流に倒されることがなかったようです。

現地コミュニティの人々に聞くと、どうやらこのような災害リスクの軽減を意図して川沿いにチークの木を植えているということがわかりました。対象コミュニティには独自の慣習・ルールがあり、その一つに切っていい木と切ってはいけない木が決められているようです。元々は人々を水害から守るという意図はなかったようですが、そこでの被災の経験と知恵の中から、災害から身を守ってくれる木を大切にし、川沿いに植林されるようになったと推察します。

"独自の慣習やルールが
人々の生活を災害から守る
形になっていったのかと想像
すると、不思議な感動を
覚えました"



写真

洪水で流れてきたものを堰き止めていた
チークの木

このような緑の堤防・防潮林は日本でも存在しますが、今回訪れた対象地域のように、昔からある独自の慣習やルールが伝承される過程で、蓄積された知恵や経験が作用し、人々の生活を災害から守る形になっていったのかと想像すると、不思議な感動を覚えました。

キョウコなキョウジョ

今回の調査で驚いた点は、コミュニティ内での強固な共助関係が対象地域でも薄れていると聞いたことでした。普段、都市部に住んでいるわたしにとっては、そもそもそこにはコミュニティが存在しないため、防災を推進するうえでは、まずコミュニティや顔の見える関係の形成を行い、その次に共助の意識を醸成することが一番の課題として頭に浮かびます。

"彼らが昔から育んできた
「強固な共助関係」がどの
ようなものか、より深く知
りたくなりました"

インドネシアの対象地域では、コミュニティや顔の見える関係は存在しますが、そこでの共助関係は年々薄れていっていると聞きました。例えば、共有資源を維持するための集合的な行動がとりにくくなったり、他者の世話を焼くお節介さん行為が少なくなっていたり、他にも、上述したコミュニティ独自の慣習やルールも、以前より守られなくなったりしているそうです。

その一方で、ある耳の聞こえない女性の方が、近所の若者たちの咄嗟の判断によって助けられ、安全な場所に避難できたというエピソードを聞きました。現地の人々はコミュニティ内の支援が必要な人々、自ら支援にアクセスできない人々を日々気にかけていますし、災害直後に支援物資を配布する際も、コミュニティの中では、彼らのような脆弱な人々が一番に優先されました。年々薄れていっているという共助関係は、日本の都市部に住むわたしからみると、十分なものに見えました。彼らが昔から育んできた「強固な共助関係」がどのようなものか、より深く知りたくなりました。



写真

被災地の人々とプログラムメンバーの
集合写真

調査の結果は、今後CWS JapanのSNS等を通して配信予定ですので、是非楽しみにお待ちいただけると嬉しいです。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

「平和」について考えてみました

CWS Japanも有志として立ち上げから参画しているNGO2030で実施している月一ウェビナーにて、「正解がないからこそみんなで話そう～ 世代や立場を超えて考える「平和」ってなに？」を開催致しました。



写真 ウェビナーイベントバナー

「平和ってなんですか」と聞かれると「戦争や争いがないこと」と答えがちですが、本当にそれだけでしょうか。考えれば考えるほど疑問がわいてくるトピックですので、ざっくばらんに語り合うウェビナーを開催しました。ウェビナーでは世代も業種も違う以下の5名の方々にご登壇頂きました。

<登壇者>

1. 館農 知里さん：現在、早稲田大学政治経済学部で国際政治学を中心に学ばれ、CWS Japanでインターンをしていています。

2. 楠 真依さん：同じく早稲田大学でこの秋から社会科学部で途上国の教育支援について学ばれる予定で、CWS Japanでインターンをしていています。

1. ハズイク ダルユシュさん：アフガニスタンご出身で、中学時代に内戦を経験し、パキスタンに避難されましたが、その後アフガニスタンに戻られました。2005年に日本に留学されて以降、日本語を含む複数の言語を扱いながら、開発コンサルタントとして、JICAのプロジェクトなどに携わられています。

4. 高橋 光男さん：参議院議員で、議員に選出される以前、外交官としてジンバブエやアンゴラの日本大使館に勤務されていました。外務省（本省）では、アフガニスタンやアフリカなどを含む日本の国際協力政策に事務局として携わられてきました。

5. 畠山 澄子さん：NGO「ピースボート」で、「地球一周の船旅」の場を活かし、参加者に国際教育・平和教育プログラムを提供されており、「平和の創り手」を創出する地球大学に関わられてきました。

ウェビナーで共有頂いたキーワードをご紹介しますが、例えば戦いのない状態だけを指す「消極的平和」に加えて争いの根本的な理由を取り除こうとする「積極的平和」。特に「人間の安全保障」の考え方（これは「国家の安全保障」と全く異なるもの）。希望がある社会だからこそ、人は前を向けて、他者を傷つける事をしなくなる、など。やはり立場や環境が異なって、異なる意見を持っていたとしても、お互いを理解しあおうとする姿勢と対話が重要なのだと認識しました。そのためには社会的・構造的な暴力にも目を向け、積極的に対話やアクションを起こしていく事も重要です。我々にできることを、一つずつ、是非やっていきましょう。

本ウェビナーは後日JPFのウェブページでも公開されますので、リンクはSNS等でまたお知らせ致します。

"立場や環境が異なって、異なる意見を持っていたとしても、お互いを理解しあおうとする姿勢と対話が重要なのだと認識しました"



写真
ウェビナー登壇者

最後に、今回登壇してくれたCWS Japanのインターンのお二人の感想も紹介いたします！

館農さん：「今回のウェビナーでは、戦争・人権・教育など、さまざまな角度から「平和」についての議論が行われたのが印象的でした。その中で、平和な世界への第一歩として、世代や立場を越えた「対話」の重要性というものを改めて感じました。今回のウェビナーが、皆さんにとって「平和」について考えるきっかけになれば嬉しいです。」

楠さん：「今回は非常に貴重な機会をありがとうございます。色々なフィールドで活躍されている方々と意見交換をすることで学びもとても多く、自分がこれまで学んできたこと・経験したことを振り返る良い機会になりました。」

(文：事務局長 小美野剛)

JESUIT REFUGEE SERVICE (JRS) とのパートナーシップを強化しています

CWS Japanでは以前よりアジア地域における緊急支援・人道保護などの分野にて

Jesuit Refugee Service(JRS)と協力関係にあり、今後更に協力を強化させる計画を立てています。

JRSは、戦争で荒廃した母国から逃れてきたベトナム難民の窮状に対応するために、1980年11月に設立され、難民やその他の強制移住者に同伴し、奉仕し、その権利を擁護することを目的にしている団体です。世界56カ国で活動していますが、特にアジア地域においてお互いの目指している事の関連性の高さやお互いの強みを強化し、弱みを補完できるという認識のもと、協力関係を強化しています。



写真
JRSのロゴ

CWSは日本のみならず、アジア地域ではタイ、インドネシア、東チモール、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、インドなどで活動を展開していますが、JRSの事業実施国と重なる国も多く、協力を強化させる事で更なるインパクト向上を目指していけると考えています。CWS Japanは国際的にもスタンダードになってきているPrinciples of Partnershipに深く共感しており、効果的なパートナーシップによって支援効果を高める事を常に目指し続けています。

JRSのアジア太平洋地域統括マネージャーであるLouie Bacomoさんからこのパートナーシップに向けて期待する事を聞いてみました。

「JRS looks forward to working with CWS in serving those fleeing violence and conflict. Serving the least, the lost and the last in our society is a mission ethos we both share.

（JRSは、暴力や紛争から逃れる人々のためにCWSと協力することを期待しています。私たちの社会で最も貧しく、多くのものを失った、取り残された人々に奉仕することは、我々が共有する使命及び理念です）」

余談ですが、JRSアジア太平洋事務所（バンコク）にはバスケットをやる方が何名かいるそうで、CWS Japanにも実は私も含め元バスケット部員が数名おられますので、いつか一緒にバスケットをしようという話もしています。仕事以外のこういった活動もお互いを理解するうえで重要です！

（文：事務局長 小美野剛）

過去のニュースレターやインタビュー記事は下記よりアクセス頂けます。

過去のニュースレターは[こちら](#)



インタビュー記事は[こちら](#)



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースボート...
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



堀内 英様 | 特定非営利活動法人 国際協力...
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...
6月 06, 2021 ■ パートナーの声



中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...
6月 06, 2021 ■ パートナーの声

ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは9月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)